



【ハマリバ考動賞】

ティーンエイジャーのための赤ちゃんを知る講座 ～児童虐待を早期に防止するために～

泉区

「ティーンエイジャーのための赤ちゃんを知る講座」プロジェクト

はじめに

赤ちゃんに接する機会がないことが児童虐待の原因の一つになっているのではないかと。「ティーンエイジャーのための赤ちゃんを知る講座」は、一人の職員の「児童虐待を防止したい」という強い思いをきっかけに誕生しました。この思いに共感した区役所の有志職員と区民ボランティアの皆さんによる協働プロジェクトが講座を企画し、県立和泉高校がこの企画に参加したことで、高校の授業として実現しました。このように企画した講座を授業として実施するのは、横浜市で初の試みではないでしょうか。

1

事業実施のきっかけ

(1) 職員による事業提案

泉区では平成16年度、職員を対象に「泉区組織横断型地域連携モデル事業」という職員の事業提案制度を実施しました。これは所属部署や担当業務に関わらず、職員が取り組みたいと思っている地域課題解決につながる事業を提案・実施しようというもので、事業の条件として、①地域の課題解決に取り組む事業であること、②区民（市民）との協働を前提とした事業であること、③2名以上の職員で取り組む事業であること、という3つの条件を満たしていることが求められました。

この制度に生涯学習支援センター

の学習相談員が応募し、庁内の選考を経て、「ティーンエイジャーのための赤ちゃんを知る講座」がスタートすることになりました。

(2) 生活者としての視点

事業提案者はアメリカでの子育て経験から、日本でも子育て支援の現場にティーンエイジャーの力を取り入れたいと考えていました。アメリカでは12歳までは子どもを一人にしてはいけないという連邦法がありますので、子どもを置いて外出するときは近所の中高生にアルバイトでベビーシッターに来てもらうのですが、これがティーンエイジャー自身にとって大変よい経験になります。

一方、日本の中高生は異世代と交流する機会が少なく、赤ちゃんや小さい子どもと接する機会もなかなかありません。特に横浜のような大都市では自分の子どもが生まれて初めて赤ちゃんに触れる、という若い保護者もおり、子育てに対する心構えも自信もありません。ひと昔前までは地域社会の中で自然に学ぶことができた「赤ちゃんを知る機会」を、

今の時代は誰かが人為的に作り出す必要があるのではないかと。そして親になる前の若い世代にティーンエイジャーの頃から赤ちゃんに接し、赤ちゃんについて知っておくことが虐待を未然に防ぐ1つの手立てになるのではないかと。事業提案者は日本の

子育て現場を経験した一人の生活者としての視点から、このように考えたのです。

2

プロジェクトの結成

(1) メンバーは有志の区民・職員

事業実施が決まってもまず取り組むのは、この事業を遂行するためのプロジェクト・チームを結成し、共に活動してくれる区民および区役所の職員を募ることでした。事業案を説明したメンバー募集チラシを作成して職員に回覧したり、知人友人に声かけをして集まった区民ボランティアおよび区役所職員は合わせて約20名。区民メンバーは、当初、区内の教員や保育士、子育てサロン関係者などでしたが、学習会や専門家による講演会等を行う中でこの事業に興味関心を持つ区民があらわれ、自然発生的にメンバーが増えていきました。職員メンバーは、サービスクラスや福祉保健課のほか、税務課や地域振興課、区政推進課など、担当業務に関わらず、様々な課の職員が参加しました。

(2) 和泉高校の協力

そのメンバーの中に、神奈川県立和泉高校の木下礼子教諭がいました。木下教諭の尽力によってこの事業が和泉高校で授業として実施されたことが、何と云ってもこの事業の成功のポイントです。木下教諭はか

表1 講座の内容

	タイトル	講師
1	赤ちゃんに触れてみよう(ただし人形)	泉区サービス課保健師・助産師
2	まあせんせいがやって来た! ～男も子育てしています～	船堀中央保育園保育士 菊地政隆氏
3	赤ちゃんと遊ぼう!	鳩の森愛の詩あすなろ保育園 保育士・園児24名 赤ちゃん十保護者10組21名
4	「虐待」についてちょっとだけ	横浜市中央児童相談所 三宅所長、岡相談指導担当係長
5	うちには子どもが9人います ～里親を体験して～	ほどがや地区センター副館長 橋本 隆氏
6	保育園実習	協力:鳩の森愛の詩あすなろ保育園、 ふたば保育園、YMCAいずみ保育園

ねてから和泉高校の生徒の中に妊娠が原因で退学を余儀なくされる生徒がおり、必ずしも幸せな子育て環境が得られないケースがあることを憂慮していました。生徒達に「命の大切さ」を教えたいと考えていたところにこのプロジェクトが立ち上がり、「ぜひうちの授業として実施したい」と申し出てくださったのです。校長先生をはじめ教職員の皆さんの理解・協力も得られ、この事業は恵まれたスタートを切ることができました。

講座の概要

(1) 赤ちゃんを知ることを中心に実施対象は決まりましたが、「児童虐待」という重いテーマをイマドキの高校生にどう伝えるか、私達の願いを彼らの心に届けるためにはどうしたらよいか、これはプロジェクト・チームのメンバーにとって大変難しい課題でした。紆余曲折の末にこのような講座を行うことになりました(表1)。まずは、人形で赤ちゃんを体感することから始め、話題

の男性保育士で生徒の心を掴む。次に、実際の赤ちゃんに接し、虐待について学び、子どもへの愛に溢れた話を聞く。最後に保育園実習で一日保育士を体験、という流れです。



(2) 生徒の変化

一連の講座は和泉高校の生徒達の純粹さ、率直さに助けられ、当初想定していた以上の成果を収めることができました。彼らは私達の願いを的確に受けとめ、その上でさまざまな「気づき」を体験しました。この事業の目的は「児童虐待の早期防止」ですが、その前提となる「生命の大切さ」や「人権の尊重」といった重要な事項についても敏感にキャッチしてくれたことは、予想外の収穫だったと言えるでしょう。

(3) 初めての養育体験
講座の3回目「赤ちゃんと遊ぼう」

および保育園実習においては、おそらく生徒達自身も気がついていなかった「子どもを慈しむ気持ち」が前面に出ていたように思います。個人差はあったものの、どの生徒も彼らが本来持っているやさしさや養育性が小さな子ども達の力で引き出されたことは価値のあることでした。子ども達は高校生を保育士さんや両親とは違う「同世代としての感覚」で歓迎し、その歓迎ムードと呼応するように高校生の側も自然と「望まれる年長者像」に変貌していった姿は実に感動的でした。

今後の課題

(1) 体験の継続

この講座は保育園実習をもって一旦終了しましたが、この講座を受講した生徒達が今後その成果を発揮する「場」を私達プロジェクト・チームがどのような形で提供することができるか、がこれからの最大の課題でしょう。今回受けた講座と実習の体験を今後継続的に活かすためにはどうしたらよいか、これは早急に考えなければいけない課題です。そのような中、平成17年9月に実施された「泉区保育園幼稚園フェア」において、講座を受けた生徒が初めて保育ボランティアを経験したことは、大きな一歩でした。これは単発のイ

ベントでしたが、今後は講座の修了生徒が継続して子育て支援の現場でその知識と経験を生かせる機会を作っていかねばなりません。

(2) 対象の拡大

もう一つ重要なのは、この講座を受ける対象をさらに拡大させることです。今回は縁あって和泉高校で実施させていただくことができましたが、今後は講座内容をより充実させると同時にこの事業の広報に努め、より多くの学校における講座実施を目指したいと考えています。そのためにも今回の「ハマリバ」で「考動賞」をいただき、この事業が区内外に広く知られたことは意義のあることでした。

おわりに

「児童虐待の防止」という大きな目的は一朝一夕に達成できるものではありませんし、赤ちゃんを知ることですべての虐待を防ぐこともできません。しかし私達は今回の講座実施を経て、ティーンエイジャーと赤ちゃんがふれ合う機会の重要性をあらためて感じました。横浜から始める「虐待ゼロ」への取り組み。今後とも細く長く継続していきたいと考えています。
△太田由紀枝 Ⅱ 泉区生涯学習支援センター学習相談員▽